

遊従多と診遇丸る日と政勢

致し方武高其他甚ふ四神此

小生は自由党は何の事存也

申すま成此致は後君徳年子此

べしと放言也又其決心を

以故也此向々他の困都支連上

傍觀丸るに忍び先又聊か考

中。不しゆそ故推して支部

多事う然し是子面存丸るも面

白かりむと致し官別家より是

の演説也粗が聴取也余の余

者支部より演説存心つりかおれ

は他子考つあり暗子は利等國の招待子應れ

すと示し又余は自由党本部より全

権也依れ此れ致し及事子由まは

新我原の多光つ一極と事か如

き自儘分多行有言語也

出すは向は難也。辞も用ひ

巧み子支部員と説き其回答

也求めぬ故也市議員支子家より

限得致し一十是より希子推案

比以て随分是の請本也容る演説之

以故激烈子諱致比且是より支党

の招待も甚也夫出り是の不徳我と

俾し致と唱し之致せり又支

分^{士得}は^は交分也此方より良

党丸るの不可かありんと申聞

の招待ニ赴き夫は是の不徳を
俸一故と唱へて之を去り又
分^{志得}得^はば^は ~~分~~ 交分あせし此方より退
き丸の何の不安かありんと申聞
むむし無智の俗物なり少き理道
と弁別する星の清浄と密その論
多敷く是子演説名心可く事
とお成道^王王^物物^をを^なな^すす
然るに^か是を自由党支部と
疫志^はは^本本^党党^をを^自自^由由^党党
より退き^てて^理理^由由^をを^免免^れれ^るる
是乃武^方方^中中^他他^のの^程程^をを^求求^むむ
最早何れか形を付けねば^はは^立立^止止
か^ら若^しし^支支^部部^疫疫^止止^のの^為為^にに
多少分^をを^配配^{する}する^郡郡^村村^のの^者者^にに
此の^等等^者者^はは^惜惜^{した}した^はは^是是
此^のの^支支^部部^常常^務務^員員^のの^軟軟^弱弱
が^為為^めめ^本本^党党^のの^心心^算算^をを^七七^換換^ええ
た^事事^大大^{あり}あり^とと^故故^をを^以以^てて^交交^分分
^のの^同同^感感^をを^何何^れれ^にに^此此^様様^にに^棄棄
して^遠遠^かか^れれ^本本^党党^にに^面面^目目^とと
一新可^しし^積積^りり^をを^免免^れれ^るる^方方^をを^左左^様様
以^てて^承承^るる^もも^なな^らら^ずず

右の内へ申上^りり^方方^他他^のの^油油^泄泄
せし^標標^奉奉^致致^候候

向^てて^御御^旨旨

九月三日

有退却を以て其の理由充分なるを
嘗て武官に他子の難ぶれは
最早何れも形を付ければ宜志
かゝる若し支部疲止の多見
多少分難れりす郡村の多見
此の如き者は惜しむに足ら
此の如き支部常議員の軟弱
中が為め本報の石炭を七換出
た。事大なりと故おれを交就
山同感する何れ此様に乗
しと遠かた本報に面目と
一新可出積り多量に買取
以承志するも

中内へ申上りて他子
酒泄
事子標奉致候

勿く物言

九月三日

長谷川

大隈先生

下